

キャリアコンサルティング技能検定2級 学科・実技（面接）試験 体験記

平成28年 9月 2日

2級受検番号 NO 07S3110092 氏名 伊藤鎮一（北九州市 在住）

1 試験に向けた準備の状況

第15回の初回受験では学科の一部合格でしたので、今回は論述・面接・口頭試問の対策にのみ注力することができました。

論述試験が6月19日でしたので、面接試験は7月16日で設定しました。前回は論述試験と面接試験の間隔があいてしまい、おおいに間延び感があったので、今回は短期集中で早めの面接日を希望しました。

論述対策に集中してとりかかったのは、6月10日ごろです。まず、3日間で過去の問題の解答例をそのまま書き写すなど、「手で書くこと」に慣れるようにしました。解答のパターン、常套句も頭より手で覚えるつもりで取り組みました。論述試験対策の動画配信も今回はじっくりまじめに見て、吸収しました。ポイントとなる部分はプリントアウトして、通勤途中に何度も見直してみました。

論述試験直前の1週間は、事務局が用意した想定課題や論述添削を3回ほど、時間を測って記述してみました。論述添削は、ひとりよがりになりがちな自分のクセを指摘していただけるので極めて有用でした。

面接準備は7月に入ってから「自主練習会資料（面談評価のポイント&事例分析資料）」を参考に、1日1ケースの練習をしました。面接対応はロープレに参加する機会がなく、ひとり準備していましたので、回答内容を論述形式で書き下ろして練習をしました。

どのような内容を、どの程度行ったか

論述対策として、事務局が配信した「面接対策 ロープレ事例課題分析と対策」を何度も見ました。この内容を自分で模擬回答する際の指針にして練習を行いました。「基本的態度」「関係構築力」「問題把握力」「具体的展開力」のいずれにもキーワードが欠けることがないように配慮することを第一に考えて練習しました。

面接対応としては、上記の「面談評価のポイント&事例分析資料」を活用しました。というより、これのみをベースに一人で「妄想問答」を行ってみました。大変よくできた資料です。ほぼ丸暗記するくらい繰り返し眺めて、「妄想練習」で答えてみた内容を文字に起こしてみました。文字にすると客観的に過不足が判断できるのでお勧めです。

論述対応も面接対応も参考資料をあれこれ広げずに、参考にしようと思ったものを徹底して何度も見返すことにしました。

準備に対する振り返り

面接はロープレをしていないので、不安でしたが、頭で場面を描けるくらいにケースを読み込んで20分間の時間配分のイメージトレーニングを行いました。論述で準備した構成

力の準備はそのまま面接に活かせるものなので、論述準備で使った資料も読み返してみました。自主練習会資料を各テーマにつき5回程度ひとりロープレをしました。「変化球がきたら、現場で対応するしかない」と割り切れるくらいになったことが本番で慌てふためくことがなかった大きな要因だと思います。

これから受検する人へのアドバイス

事務局から配布された資料は大変参考になりました。とても実践的な資料ですので、しっかり読み込んで活用されるといいと思います。基本を押さえておけば60%は安心できます。根拠のない自信ではなく、根拠のある自信は安心につながりますので、準備したことがきちんと本番で発揮できるようになると思います。

試験ですので、「基本的態度」「関係構築力」「問題把握力」「具体的展開力」で試験官がチェックしたいこと、聞きたいキーワードを押さえておくことです。テクニク的にはなりますが、目的は合格ですので、大事なことと思います。これらの留意ポイントもすべて事務局資料に網羅されていました。

2 試験当日の状況（試験場での様子を思い出しながら、記述または選択して○をつけてください）

面接試験日 7月10日 福岡市で受検

試験時間は午前の最後から2組目だったと思います。終了は12:00ぐらいと記憶していますが、もう1組待ちがありましたので。

試験希望日をこの日に設定した理由は何ですか。

論述試験から日を置きたくなかったので、3週間後の日にちで設定しました。

試験官の性別：男性1人、女性1人 事例番号：3 の吉田さんです

3 試験の状況（ロールプレイの流れや特徴点について記述してください。その他、試験中に意識したこと、注意したこと、事例相談者の対応など、気づいたことを自由に）

① 導入部	試験室の前に女性がいたので、ドアの横で待っている時点でおおよそどの事例であるか想像ができましたが、先入観を持たないように、相手の言葉だけを聞こうと平常心を保つよう意識しました。
② 基本的態度	相手の話の腰を折らないように、相槌、うなづきで傾聴していることを示しました。試験官にも見えるようにアピールする目的もあります。
③ 関係構築	ケース内容をすでに読んでいるのですが、「知っています」的な態度がでないよう、相手の言葉に対応することを意識しました。とくに相手の不安点と思われる言葉がでたときには共感するよう努めました。
④ 問題把握	どうしてそのように思うのかという質問も交えて、本心を語るきっかけを与えて聞き出す態度で臨みました。

	<p>要約をして、クライアントにその通りですという反応をもらい、ほっとしました。「では、一緒に考えていきましょう」と次のステップに移ることができました。ひと山越えたと感じた場面です。</p>
⑤ 具体的展開	<p>方策と実行の合意は、オリジナリティで進められる部分と思いますが、独りよがりにならないように、いくつかの方策「上司に話してみても？ 環境を変える場合を比較検討してみても？ ご主人の意見は？」など、提案したことに対するクライアントの反応をみながら、本人が受け入れやすそうな切り口を探ってみました。</p>
⑥ 口頭試問の内容と回答	<p>① 良かった点と改善点は？ :良かった点「やりがいを感じなくなって転職を考えているというCLの状況と気持ちを受け止めながら、問題の解決方法を一緒に考えられたことです。」改善点「目標とする事項は共有できましたが、もう少しいつまでにとというように期日も示した方が、よりCLが行動しやすいアドバイスになったように感じます。」</p> <p>② 関係構築はできましたか、どんな点で感じたか？ :「できていたと思います。転職したい気持ちだけでなく、上司との人間関係、職場のメンバーへの感謝のことばなど、迷っている要素も詳しく話してくれて、提案した方策にも納得してくれていたと思います。」</p> <p>③ CLの問題点、CC視点の問題点はなにか？ :CLの問題点「雑務ばかりでやりがいを感じないので転職を考えているが、今後どうしてよいか相談したいということです。」CC視点の問題点「職場の雰囲気はいいし、給与も満足しているという発言から、やや短絡的に考えている可能性があると思います。」</p> <p>④ 実行できたことと、実行しようとしたことは？ :実行できたこと「まわりの人からの評価をきちんと聞いてみることも大事と思うので、自分一人で決める前にもっと自己理解を深めてみましょう。また、転職をする場合も働きながら情報を集めることもできるので、短絡に考えずに適性検査も活用して比較検討をしっかりと行ってみましょうと提案し、CLもそうしてみますと。と答えたことです。」</p> <p>実行しようとしたこと「いろいろと自己理解をする方法を示しましたが、多く提示しすぎてしまったかもしれません。</p> <p>どれを優先するかも示して、本人の納得と理解を得て方策の実現を進めていきたいと思います。」</p>
<p>これから受検する人へのアドバイス</p> <p>面接は事務局のレクチャーでも何度もお聞きしましたが、やはり口頭試問がキーと思います。聞き取り・問題把握までは、あらかじめ設問が開示されているので準備ができると思います。ここまではきっちりパターンを固めておきましょう。その後の具体的展開にきちんと答えられることがポイントかなと感じました。</p>	

事務局から配布された口頭試問向けの「残念な理由」「事例に沿った回答例」は極めて参考になりました。

私は、この質問に沿った回答例のフレーズをほぼそのまま使わせていただきました。

イディオムとして覚え込んでしまうのも試験対策としては有効と思います。

.....

1 級キャリアコンサルティング技能士の会 分析チームからの「ひとこと」

■合格のポイント

- ①実技試験としての論述試験の意味を正確に把握し、自分で解答を何回も書くことで書き方に慣れたことが勝因です。
- ②面接試験の「問題把握」と「具体的展開」で、クライアントに確認をして、同意を得ながら進行していることが評価されます。
- ③口頭試問での応答が、当会の資料のとおり一般的な回答ではなく、事例に即した内容になっていることが高い評価を得て、得点アップにつながりました。